

この街が好きだから

大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語

no. 54

境南町五丁目

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。



この作品は、境南町の富士見通りで描いたものである。絵が仕上がりに近づいた頃、下校中の小学生のグループに囲まれ、質問責めにあいながらのスケッチとなった。

実は、約二十年前にも、写生中に大勢の人達に囲まれたことがあった。場所は中国の北京駅前で、私のスケッチが珍しかったのか、二人、三人と集まってきて、最終的には完全に囲まれてしまい、残念ながらスケッチを途中で断念したことがあった。

その日は北京駅を描くつもりで、市内のホテルを出て通りがかりのタクシートの運転手に「北京駅」と書いたメモを見せたが、NOと手を振られた。文字が読めないはずはないのにと思いつつ、二十分程度歩いて北京駅に着き、駅名を見てビックリ。駅名が「北京駅」ではなく、「北京站」になっているではないか。

漢字に関する私の浅学を思い知らされた一幕であった。(絵と文・大須賀一雄)

Profile

大須賀一雄
(おすかかずお)

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』(日貿出版社)、『スケッチお手本帖』(素朴社)、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』(旅もようスケッチ会)ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も25回を超える。